

第 24 回全国大会 日本中世英語英文学会

2008 年 12 月 6 日（土）・7 日（日）

大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1

TEL 072-254-8364（相田周一研究室）

第 1 日 12 月 6 日（土）13:00-17:05

シンポジウム I（総合教育研究棟 117 教室）

「トマス・マロリー研究：日本からの更なる発信」

1985 年とその後

本文異同と英語史資料

Malory の受容史としてのテキスト研究

マロリーの意味と文脈

司会・総論

向井 毅（福岡女子大学）

高宮利行（慶應義塾大学）

中尾祐治（名古屋大学名誉教授）

不破有理（慶應義塾大学）

野口俊一（大阪教育大学名誉教授）

研究発表 I（206 教室）

1. 後期 ME における定形節と不定詞補文—指示動詞を中心に—

澤田真由美（岩国短期大学）

2. 後期中英語の法律用語に見られる否定接頭辞について：法官庁英語と *Piers Plowman* の場合

岡田 晃（大東文化大学大学院）

3. 後位修飾語句の通時的—研究

佐藤 勝（日本大学）

4. リドゲイトの不揃いな韻律について—特に「many a + 単数名詞」を中心に—

松本博之（豊田工業大学）

研究発表 II（207 教室）

5. Tit for Tat: Symkyn's Wymmen as Instruments of Revenge

Dylan Jones（福井大学）

6. Young Men Behaving Badly or 'What goes around comes around': Why was Chaucer's *Pardoner's Tale* set in Flanders?

William Snell（慶應義塾大学）

7. ティルペリのゲルワシウスと中世の驚異

大沼由布（慶應義塾大学）

第 2 日 12 月 7 日（日）10:00-12:45

シンポジウム II（117 教室）

「中期英語の感覚表現の謎に迫る—Chaucer を核にして—」

司会・総論

吉村耕治（関西外国語大学短期大学部）

Chaucer の感覚と表現—Chaucer の <眼> の比喻をめぐって—

河崎征俊（駒澤大学）

Chaucer とロマンスの感覚と表現—*Prioress's Tale* における *swete* の ambivalence を中心に—

中尾佳行（広島大学）

中世仏文学の感覚と表現—14・15 世紀フランスの色名・色調・色彩感情を中心に—

徳井淑子（お茶の水女子大学）

Chaucer と *Gawain-Poet* の感覚と表現—Chaucer の感覚表現の巧みさ—

吉村耕治（関西外国語大学短期大学部）

コメンテーター

池上忠弘（成城大学名誉教授）

研究発表 III (206 教室)

8. *Sir Gawain and the Green Knight* におけるトロイ、ブリテン島、イングランド、地方のアイデンティティ
岡本広毅 (立教大学大学院)
9. 『サー・ガウェインと緑の騎士』における煉獄めぐりの構造
多ヶ谷有子 (関東学院大学)
10. 中英語頭韻詩 *Sir Gawain and the Green Knight* 校訂本研究—editorial process が登場人物像にもたらす多様性についての一考察—
近藤未奈 (大阪学院大学 他)

研究発表 IV (207 教室)

11. 古英語 *āgan* の助動詞としての可能性
海田皓介 (千葉大学学院)
12. Ælfric 作品における数量詞の語順
龍 美也子 (東京外国語大学 他)
13. *Le Morte Darthur* の「アーサー王と皇帝ルシアスの物語」に見られる「ローマ帝国」と「イングランド」の意識
高木眞佐子 (杏林大学)

* 受付は 12 月 6 日 (土) 11:30-16:00、7 日 (日) 9:30-11:30、総合教育研究棟 1 階ホールにて行います。

日本中世英語英文学会 (会長 高宮 利行)

事務局 〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45 慶應義塾大学文学部 松田隆美研究室内

TEL 03-5427-1193 / FAX 03-5427-1578 (共有)

[大会準備委員] 大野英志 (委員長) 岡崎久美子 鎌田幸雄

唐澤一友 John Scahill 藤井香子 不破有理